

アリという生きものからイメージするのは、①律義(りちぎ)な働き者である。②キンベン(勤勉)の代名詞ととってもいい。昭和の大家だった俳人加藤楸邨は、日本にこの生まじめな蟻の顔と詠んだ。作者の日本人観であり、ユーモラスな自画像でもあるろう▼△Xとところで、V、アリの大敵に(1)アリジゴクがいる。砂地などにすり鉢状の巣を③ホ(掘)つて④潜(ひそ)み、落ちてくるのを⑤ホシヨク(捕食)する。巣は砂が崩れないぎりぎりの角度に作られていて、アリが脚を踏み入れると崩れるそうだ▼小さな働き者がころがり落ちる図は哀れだが、(2)それが虫の話だとも思えなくなってきた。この国の借金は一千兆円を超えている。それに加えて、各省庁の来年度予算の⑥ガイサン(概算)要求は102兆円台で、過去最大になるという。「ぎりぎりの角度」に近づいてはいいのだろうか▼先進国中最悪の水準といわれ、国民1人がすでに約830万円もの⑦シャクザイ(借財)を背負っている計算になる。今日をしのぐ借金を子や孫の世代の暮らしを⑧質草(しちぐさ)にして重ねている格好だが、このままではいずれ限界はやつてこよう▼国債の暴落や超インフレを⑨ケネン(懸念)する声は常にあつて、そうなれば国民生活は⑩破綻(はたん)しかねない。「生まじめな蟻」と思っていた自画像は崩れて、砂の穴底へころがり落ちることになる▼「それ世の中に借銀の利息ほどおそろしき物はなし」と井原西鶴はない樂觀をきつく叱るに違いない。様々な痛み分けを、もう先送りにはできぬはずと。

〔2015年9月1日「天声人語」〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを答えなさい。

問二 次の俳句の作者を語群から選び、() に記号を書き入れよう。

ア 水枕ガバリと寒い海がある(C)

イ 外にも出よ触るるばかりに春の月(A)

ウ 鮫鰾の骨まで凍ててぶちきらる(D)

エ 足袋つぐやノラともならず教師妻(B)

〔語群〕A 中村汀女 B 杉田久女 C 西東三鬼 D 加藤楸邨

問三 △XVに適する語を次から選び、書き入れよう。

・ だからこそ ・ さらにまた ・ ところで ・ けれども

問四 「アリ」が、働き者の日本国民にたとえられるなら、傍線部(1)「アリジゴク」は何にたとえられるか、文中から二字の熟語で答えよう↓(借金)

問五 傍線部(2)「それ」の指示内容を考えよう。(解答には「アリ」「アリジゴク」の語を必ず用いること)

〔答例〕(アリがアリジゴクの巣に捕まって、食べられてしまうこと。)

問六 傍線部(3)「日本永代蔵」にあてはまる選択肢の記号を○で囲もう。

ア 男女の恋や好色生活を描いたもの。 イ 武士道を主題としたもの。

ウ 町人生活を主題としたもの。 エ 諸国の珍聞奇談。